

相談支援だより

群馬県立太田特別支援学校
第4号 令和6年3月

コミュニケーションの基本 伝え方に工夫を

幼稚園・保育園・小・中学校を訪問し、今年度1年間いろいろなお話をするがありました。その中には、「指示が伝わらない・話を聞いていない・約束が守れない」等、言葉の理解に関係することと、「言葉がはっきりしない・不明瞭・泣いて訴える」等、表現に関係することが多かったです。そんなとき、子どもの気持ちに寄り添うこと、大人側の伝え方等を大切なポイントとしてお話ししています。

子どもの発信を受け止める

○子どもがままごとで包丁を持ってにんじんやスイカを切っている時（まずは 見守る）

「トントン」（動きに合わせて）

「みて」「できた」等（視線を向けたら）

一緒に楽しく関わってみましょう

○片付けの時間になり、おもちゃを抱えたまま泣き出す。（「泣かない」「片付けて」NG）

「いやだね」「やりたかったね」（共感）

+ 冷静に分かるように伝えましょう

伝え方の工夫(絵や身振りも)

○次はダンスをするからおもちゃを片付けて一列に並んでトイレに行きましょう???

①かたづけ（絵や具体物、身振り提示）

②トイレ（写真カード、並んでいる絵）

③ダンス（活動場所カード、動き）

→ 順番提示による見える化

☆片付けるタイミングをどう伝える？

残り時間が見える時計、タイマー、個々に合った手立てで事前に予告 → 見通し

目からうろこ anomira 代表 北爪浩美先生 の お話 より

幼児期の服薬により脳の神経細胞のネットワークをつなぐことができる

発達障害（ASD,ADHD など）のお子さんは、投薬治療により、脳機能のバランスを保ち、脳神経をうまく育てて、お子さんが本来もつ力を発揮させる効果があり、適切にお薬を服用したお子さん達からは、「モヤモヤしていた頭の中がすっきりした」という発言が多く聞かれたとのことです。幼児期に服用すれば、だんだん服用しなくても大丈夫になることも多いそうです。

（早期の服薬のためには、医療機関への相談が大切です。）

褒めるのはいつ？ 言葉かけのタイミングを逃さない

活動のたびに褒めることは、子どものゴールを曖昧にすることがあり、最後までやり遂げたときに、タイミング良く言葉をかけると自主的に取り組めるようになるのだそうです。

（褒めることは大切なことです。が、もしかしたら褒めすぎていたのかも…反省）



<参考文献：ことばの遅れが気になるなら 古荘純一 講談社>



<お気軽にご相談ください>

群馬県立太田特別支援学校

専門アドバイザー 原島 美好

TEL:0276-32-3939 FAX:0276-32-4224

E-mail :miyo-harashima@edu-g.gsn.ed.jp

